

# 平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		2 年
科 目	あん摩マッサージ指圧応用実習 I		
科目担当者	高橋忠庸・吉野徹也		
単位数及び年間時間数	4	単位	120 時間
使用教科書	なし		
使用参考書	手技療法の基礎と臨床		
評価方法	前期、後期の試験で評価する		
授業目的及び概要	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と基本的治療技術を指導することにより応用力を養い、3年次のあま指臨床に応用できる技術と態度を養う。学年末には臨床実習前試験を実施する。		
授 業 内 容			時間数
前 期 ( 15 週)			60
1 導入			4
2 基礎実技の復習			26
側臥位			10
伏臥位			12
仰臥位			4
3 全身施術			26
背腰部			8
下肢			6
上肢			6
頭頸部			4
4 臨床の基礎			4
施術者倫理			
接遇			
後 期 ( 15 週)			60
5 各部位に対する施術			16
6 遭遇しやすい疾患入門編			20
(1) 五十肩			4
(2) 肩こり			4
(3) 腰痛			4
(4) 坐骨神経痛			4
(5) 膝疾患			4
7 臨床入門			20
身体診察			4
施術方針			2
施術方法			12
まとめ			2
8 臨床実習前試験			4

# 平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		2 年
科 目	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅱ		
科目担当者	小泉 貴・牧 邦子		
単位数及び年間時間数	2 単 位	60	時 間
使用教科書	手技療法の基礎と臨床（岡山盲学校編）		
使用参考書	生活と疾病Ⅱ（臨床医学総論）		
評価方法	前期、後期の各学期ごとに、複数教官により実技試験を行い評価する。 又、臨床実習前試験を実施し、評価の内容に加える。		
授業目的及び概要	1年次に修得したあん摩、マッサージ、指圧の基礎的技術を発展・向上させ、各種疾患・症状に対する病態把握と応用的治療技術を指導することにより、3年次のあん摩マッサージ指圧臨床実習に応用できる技術と態度を養う。学年末には臨床実習前試験を実施する。		
授 業 内 容			時間数
前 期 （ 15 週）			30
1. 導入（指導計画の説明等）			1
2. 実践的な施術方法			10
3. 臨床を意識した各肢位における施術技術の向上			19
1) リスク管理			2
2) 医療接遇			2
3) 触察			13
4) 施術中の立ち位置、姿勢など			2
後 期 （ 15 週）			30
1. 腹部のマッサージ			4
2. 下肢のオイルマッサージ			6
3. 臨床入門			20
各種症候に応じた診察・評価・治療			16
臨床実習前試験			4

# 平成31年度教科指導計画書

## 理療教育課

学 年	専門課程		2年
科 目	はりきゅう応用実習 I		
科目担当者	米田裕和、島村明盛、尾崎雅則		
単位数及び年間時間数	4 単位	120	時間
使用教科書	鍼灸実技 オリエンス研究会編		
使用参考書	新版 経絡経穴概論、人体の構造の機能 解剖学 第2版		
評価方法	随時試験＋期末試験で評価する。 臨床入門における目標到達度を示す。		
授業目的及び概要	<p>施術者として必要な、はりきゅう施術に関する西洋医学的な知識と技能について習得し、はりきゅう施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を養う。また、はりきゅう応用Ⅱと並行して授業を進めることによって、東西医学の両面から配穴を行い、総合的な診断、治療ができるよう触察技術を基本に実習する。学年末には臨床実習前試験を行い、評価する。</p>		
授 業 内 容			時間数
前 期 ( 15 週)			60
1. 西洋医学的診断に基づいた鍼灸施術（臨床実習前試験に関わる内容を伴う。） (1) 下腿と足関節 (2) 骨盤と腰仙・仙腸関節 (3) 骨盤と股関節 (4) 手関節と前腕 (5) 肩関節 (6) 膝関節 2. 分野別の治療法（健康医学分野・産業医学分野・スポーツ医学分野・老年医学分野） 3. 臨床入門（リスク管理・衛生管理・患者への対応・診察の進め方・適否の判定） 5. 特殊鍼法（小児鍼法・皮内鍼法・灸頭鍼法・刺絡鍼法・鍼通電療法・その他） 6. 施術所見学実習 講評			5 5 5 5 5 5 5 2 16 8 2 2
後 期 ( 15 週)			60
2. 分野別の治療法（健康医学分野・産業医学分野・スポーツ医学分野・老年医学分野） 3. 臨床入門（リスク管理・衛生管理・患者への対応・診察の進め方・適否の判定） 4. 日常遭遇しやすい主な疾患・施術に対する診察と施術 (1) 運動器系（肩こり・頸肩腕痛・腰下肢痛・肩・膝の関節痛） (2) 呼吸器・循環器系（咳嗽・高血圧症） (3) 消化器系（胃炎・便秘・下痢） (4) 婦人科系（月経異常・更年期障害） (5) その他 5. 特殊鍼法（小児鍼法・皮内鍼法・灸頭鍼法・刺絡鍼法・鍼通電療法・その他） 7. 臨床実習前試験 講評			4 10 30 2 2 2 6 2 2

# 平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程 2年		
科 目	はき応用実習Ⅱ		
科目担当者	池田 和久・嶋 正明		
単位数及び年間時間数	2 単 位	60	時 間
使用教科書	鍼灸実技 オリエンス研究会編		
使用参考書	新版 経絡経穴概論		
評価方法	随時試験＋期末試験＋平常点＋臨床前試験で評価する。期末試験については、刺鍼・施灸技術、診断・治療の流れ、施術部位の取穴法、衛生面、患者への対応などについて評価する。		
授業目的及び概要	<p>施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。また、期末試験及び臨床実習前試験を行い、技術等に関する評価を行う。</p> <p>実習を通じて東洋医学的な知識と技能について修得し、はりきゅう施術を適切かつ効果的に行う技能と態度を養い、はりきゅう応用Ⅰと並行して授業を進めることによって、東西医学の両面から配穴を行い、総合的な診断、治療ができるよう触察技術を基本に実施する。</p>		
授 業 内 容			時間数
前 期 ( 15 週)			30
1. 体幹の触察と背部兪穴、募穴への施灸と刺鍼			
ア 体幹の触察			2
イ 背部兪穴・募穴への施術			4
2. 東洋医学による診察法の基礎と鍼灸施術			
ア 脈状診			8
イ 比較脈診			6
ウ 基本四証			6
エ 腹診（上下腹診法を中心に）			2
3. 臨床実習前試験に関する指導			
ア 医療面接に関すること			2
後 期 ( 15 週)			30
4. 原穴・絡穴・郄穴、下合穴の運用と鍼灸施術			2
5. 日常遭遇しやすい主な症候・疾患に対する診察と施術			
東洋医学的診断に基づいた鍼灸施術（灸療法と特効穴の運用を含む）			
ア 運動器疾患			4
イ 呼吸器、循環器疾患			2
ウ 婦人科疾患			2
エ 消化器系疾患（胃炎、便秘、下痢）			2
6. 特殊鍼法（皮内鍼法、接触鍼法（小児鍼）ほか）			6
7. 臨床入門（リスク管理、衛生管理、患者への対応、診断の進め方、適否の判定）			7
8. 臨床実習前試験に関する指導			
ア はき応用Ⅱに関すること			4
9. 臨床前試験			1

# 平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程			3 年
科 目	あん摩・マッサージ・指圧臨床実習			
科目担当者	佐取幸枝 滝修 松浦久泰 渡邊麗恵			
単位数及び年間時間数	2	単位	90	時間
使用教科書				
使用参考書				
評価方法	理療教育課・臨床実習評価基準に基づいて評価する。			
授業目的及び概要	施術者として必要なあん摩マッサージ指圧臨床に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。			
授 業 内 容				時間数
前 期 ( 15 週)				45
1. ガイダンス 臨床実習の位置づけと当治療室における流れの説明 環境確認 (ベッドメイキング、患者さんの誘導、後かたづけを含む) リスク管理、衛生管理、施術録作成の説明・指導				6
2. 実習協力者を介しての按摩・マッサージ・指圧による施術 ①教官がリードしての病態像の把握と利用者による施術 ア 初診・再診それぞれに応じて必要事項 (主訴、現病歴、付随症状、既往歴、体調の一般状況など) の問診による情報の引き出し イ 必要な触診、徒手検査の実行 ウ 治療の目標・目的の設定と治療方法の組み立て エ 利用者による施術と教官によるチェックと指導 ②効果判定、評価 利用者自身と教官による直後効果の判定、評価 実習協力者からの治療後の実感の引き出し 必要に応じて、教官と利用者とのカンファレンス ③パソコンによる電子施術録の作成とチェック、指導				39
後 期 ( 15 週)				45
1. 実習協力者を介しての按摩・マッサージ・指圧による施術 ①利用者がリードしての病態像の把握と施術 (適宜教官が助言・指導しながら) ア 初診・再診それぞれに応じて必要事項 (主訴、現病歴、付随症状、既往歴、体調の一般状況など) の問診による情報の引き出し イ 必要な触診、徒手検査の実行 ウ 治療の目標・目的の設定と治療方法の組み立て エ 利用者による施術と教官によるチェックと指導 ②効果判定、評価 利用者自身と教官による直後効果の判定、評価 実習協力者からの治療後の実感の引き出し 必要に応じて、教官と利用者とのカンファレンス ③電子施術録の作成とチェック、指導 利用者から提出された施術録のチェックと必要な指導				45

# 平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程	3 年
科 目	はき臨床実習 I	
科目担当者	小泉 貴、奥山夕記子、島村 明盛、大久保正樹	
単位数及び年間時間数	2 単 位	90 時 間
使用教科書	なし	
使用参考書	なし	
評価方法	臨床実習評価基準に基づき、前期・後期に評価する。	
授業目的及び概要	<p>施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。また、臨床実習前に施術実技試験等を行い、技術等に関する評価を行う。</p> <p>今年度は一クラスをA班、B班とグループ分けして指導する。</p>	
授 業 内 容		時間数
前 期 ( 15 週)		45
<p>1. 実習の準備と整頓、施術者としての基本を実行する。 患者（実習協力者、以下患者）への配慮、指導教官と他の実習生への協力。 消毒・清潔の保持。環境設定、施術器具の正しい取り扱い。</p> <p>2. 教官とともに診察・評価し、教官の指導の下で施術する。 患者の主訴、症状を明らかにする。疾病の理解、施術の適否の判断。 患者への説明、症状に基づいた評価、治療目標、治療計画。 安全で効果的な施術の選択と実施。</p> <p>3. 教官とともに施術後の評価を検討する。 施術後の評価と検討。</p> <p>4. 施術後、施術録を作成し、指導と助言を受ける。 適切な施術録の作成</p>		<p>通年 通年</p> <p>通年 通年 通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
後 期 ( 15 週)		45
<p>5. 臨床家として診察・評価・施術、その結果についての検討 1. ～4. の臨床上の実践、課題発見と自己解決。</p> <p>6. 実習のまとめ</p>		<p>通年 通年</p>

# 平成31年度教科指導計画書

理療教育課

学 年	専門課程		3年
科 目	はき臨床実習Ⅱ		
科目担当者	池田和久、鈴木 格、佐藤智紀、嶋 正明		
単位数及び年間時間数	2	単 位	90 時間
使用教科書	なし		
使用参考書	なし		
評価方法	臨床実習評価基準に基づき、前期・後期に評価する。		
授業目的及び概要	<p>施術者として必要な応用的施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。また、臨床実習前に施術実技試験等を行い、技術等に関する評価を行う。</p> <p>今年度は一クラスをA班、B班とグループ分けして指導する。</p>		
授 業 内 容			時間数
前 期 ( 15 週)			45
<p>1. 実習の準備と整頓、施術者としての基本を実行する。 患者（実習協力者、以下患者）への配慮、指導教官と他の実習生への協力。 消毒・清潔の保持。環境設定、施術器具の正しい取り扱い。</p> <p>2. 教官とともに診察・評価し、教官の指導の下で施術する。 患者の主訴、症状を明らかにする。疾病の理解、施術の適否の判断。 患者への説明、症状に基づいた評価、治療目標、治療計画。 安全で効果的な施術の選択と実施。</p> <p>3. 教官とともに施術後の評価を検討する。 施術後の評価と検討。</p> <p>4. 施術後、施術録を作成し、指導と助言を受ける。 適切な施術録の作成</p>			<p>通年 通年</p> <p>通年 通年 通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
後 期 ( 15 週)			45
<p>5. 臨床家として診察・評価・施術、その結果についての検討 1. ～4. の臨床上の実践、課題発見と自己解決。</p> <p>6. 実習のまとめ</p>			<p>通年 通年</p>